憲法
草案

修正意見

伊東
7

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

217017

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

憲法草案修正意見

国立国会図書館
伊東巳代治文書
伊東図書

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

日本帝國憲法修正案ニ關スル意見

第一章　根本條則

（第一條ヨリ第三條ニ至ル）余ノ原案第一條ニハ下之ノ如ク其根本條則ヲ列記シタリ一ニ曰ク日本帝國ハ世襲君主國ノ中二ニ曰ク日本帝國ハ永遠ニ（分割）ハ一カラス三ニ曰ク帝

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

位ノ継承ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ則チ是ナリ而シ
テ修正案第一條ニ第三條ニ定ムル事項ノ掲ケタルニ全
ク余ノ原案ト同一ノ意義ヲ表スモノ、ミナラズ原
案ノ明文ハ却テ法律語ニ適スルナラン欤、然レトモ余ハ修
正案ノ字句ヲ以テ日本人ノ感覚ニ適應スル信スルヲ
敢テ異議ノ其間ニ容ルヽヲセスト雖モ余ハ尚ホ二三
ノ事項ニ付別ニ修正説ヲ提出セサルヘカラサルモノアリ
第一　修正案第一條ニ萬世一系ノ天皇ヲトアリ
四天ノ移称ヲ新タニ加ヘタル吾人ハ前途百年ヲ豫ヒメト断ス能カサ著何セ
ハ四天ノ移称タルヲ知ラサル吾人ハ將来ノ明知ヲ欠ケル能ハス言少
ク不祥ニ渉ルノ憚ナキニアラストモ今後幾百千年

後ニテ皇統ノ連綿タルヘキヤハ何人モ豫知能ハ
ル所ナリ然ルトキハ漢然萬世基礎ノ頼ル
過去ノ称ハ今天下基列國ノ成ノモノ
決シテ天壌ト與ニ窮リ無キヲ能ハサルハ咸共ニ相
通シテ信スル所ニアラスヤ蓋シ余ハ法律上或ハ

政治学上ノ道理ヨリシテ果シテ然リトセヲヘカラサルヲ知
ルトモ余ハ歴史上ノ事實ニ徴シ故ニ前述
百年ノ豫ノト断シ能ハサルノ理由ヲ明ニス
四 往昔ハイーウアノ王家極盛ノ時王國八百年ニ及
九百年紀大祝ニ當リ國王ハ特ニ勅ヲ發シテ曰ク朕

ノ皇室ハ天地ト與ニ無窮ニ存ス朕案ズルニハイーウア王國
ヲ統治スルモト然ルニ其後未タ數年ヲ出スシテ國王ハ冕
冠ヲ失ヒ國土ハ普魯西ニ併ハサレ皇室ハ滅ヒ宗
祀ハ廢セラレタリキ主旨ヨリ今ハ一ノ事例ヲ以テ他モ亦然
リト云フニアラサルヿナラス實ニ日本ニ於テ此ノ如キ変事

見ンコトハ夢想ニ能ハサル所ナリトスモ唯タ漠然タル
文字ヲ憲法ノ首條ニ置キ以テ天下ノ論難ヲ招クハ
萬々得策ニアラサルヿハ忠告セサル欲スルノミ
抑モ日本カ開闢以來皇統一系ノ天子ヲ戴クハ歴
史上ノ事実ニシテ萬國其比類ヲ見ス洵ニ誇ルヘキ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

事タルヲ以テ之ヲ憲法ノ明條ニ加フルハ素ヨリ其宜ヲ
得タルモノナリ故ニ寧ロ萬世一系ノ更メテ開闢以
来一系ノ天皇ト敵ノ萬世ニ渡ル迄推ス為
サンヤ一層ノ美ヲ増スヘシ

第二　修正案第三條ニ日本帝國ノ疆域ハ現在ノ
統一ニ属スル版図ニシテトアリ是ハ普魯西憲法ノ
白耳義憲法ノ其ニ載スル所ヨリ採ル白耳義ニ於テハ
一國ヲ構成スル各州名マテモ明記シタリ蓋シ白耳義ハ
當時阿蘭陀ヨリ離レ新ニ國ヲ成スモノナレハ憲法中
ニ各州名ヲ列記スルノ必要アリシナレ此ルニ日本ニ於テハ
帝國

明々白々更ニ疑ノ容ルヘキナキ事項ヲモ此ニ明記セス却テ何時ニテモ其疆域ヲ変更スルヲ得トセフノ事実ヲ記言スルニ異ナラスヤ

前回上二項ニ國疆ノ変更ハ專ラ法律ニ依ルトアリ是レ亦普魯西ノ憲法ニ其例ヲ見ルトモ余ハ之ニ向テ反對抗論セサルヲ得ス寡聞ノ誘ノ左ニ其理由ヲ述ブ

一ニ曰ク凡ソ國疆ノ変更ハ列國ノ交渉ヨリ起ル

モノニシテ其事タル主ニヨリ議院權限内ニ属スル

モノニアラス

二ニ曰ク國疆ノ変更ハ宣戰講和ニ依テ生ル来リ

其結果ハ議院ノ議決ニ依リ左右シ得ヘキモノニ

アラス

三ニ曰ク議院ノ決議ヲ経タルテ宣戦媾和訂盟ヲ為

スハ王権ニ反スルモノ（ノ恐アリ）試ニ普魯西ノ例ヲ挙ケ

其憲法第一條ハ果シテ第四十八條ニ矛盾スルナキ

事（議ニ属ス）

ヤ否ハ今日ノ疑問ノ点ニ属スルニ此ノ如キ事（極力）ニシテ

議院ノ承認ヲ経ルモノハ（ル）其（表飾ノ）典例儀式ニ過キ

ザルモノ多シ

第三　日本帝国ハ永遠分割スヘカラサルヲ載タル除ニ

必要ナリトスルヲ得ス　現今ノ勢ヨリ察スルニ日本ハ分割

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

たル日ハ又ハ日本國ノ滅亡ヲ見ル恐ニナキ獨リ日本
ノミナラス何レノ邦國ト雖モ亦然リトスル而シテ憲法中ニ
此ノ如キ明條ヲ設クルモノ一ニシテ是ラス殊ニ普魯西憲法
中ニ於テハ最モ重大ナル條件ト認メラル（リヨレヌ氏國法
學第一卷第三十三節ヲ參觀スヘシ）素ヨリ地ヲ割キ
國ヲ失フハ稀有ニシテ復タ稀有ニアラス現ニ獨逸ハ普
魯西澳太利ヨリ分離シ阿蘭陀ハ白耳義ホルランド
ニ分チタリ合衆國ハ一タヒ亡國ノ徵ヲ表ハシタリキ現ノ如
キ現ニ愛蘭ノ分離ヲ受クルノ危ニ迫ル是ハ依テラスヲ
觀レハ憲法ニ是等ノ條項ヲ明載スルハ全ク甚タ必要ナ

ヲ見ス些レトモ余ノ底意ヲ叩カバ更ニ必要ナキヲ明
ニセサルヲ得ザルナリ

第四条

第二章　天皇

本条ニ指定スルノ逐貢ハ余カ原案中二条ニ載スル所ト更ニ異ナル所
ナキカ如シトイヘトモ其明文ニ至テハ一二ノ疑團ナキ能ハス抑モ天皇ノ
國權トシテハ甚タ穏当ナル理ヲ權ヒシ之ヲ言ヘハ天皇ハ國君ノ
大和國ニ於テ各成ス國猶ホ人身ノ如ク其一ヲ欠ケ故ニ最上權ヲ有スルナリ
政權 Power of government 統治ノ權ニ有スルナリ

Sapienne power

matterogatta

又大政ノ字漢然トシテ其疆界判然明瞭ナラス要スルニ最
上權ハ人民ニ於ケルガ如ク之ヲ自由ニ施國スルニ非スシテ憲法ノ規程ニ從ヒ
之ヲ施行スルトモノ意ニ外ナラス之ヲ再言スレハ施治ノ權ハ獨リ憲法ヲ
之ヲ羈束スルコトヲ以テ國家ノ事業ハ憲法ノ要ヲ而羈束スルトモノ
意ニ非ス皇位継承皇室ノ結婚モ大政ニ非スト雖スルコトヲ得スト而
少皇位継承トモ皇室ノ結婚トモ皇室典範ノ之ヲ定ム
コトヲ得ルモ和決シテ憲法ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要セサルニ非ス故ニ本条ハ左ノ如ク
修正セハ可ナリ

第　　
一切ノ施治權ヲ從攬シ此憲法ニ規定スル所ニ從ヒ之ヲ施行ス
別ニ異議ナシ

事案ニ於テモ亦大政ノ目的ヲ少シ改ムルニ施治ノ変ヲ決スルノ可ナルハ既ニ
敢述ニ之ヲ理由シ以テ之ヲ知ルベキナリ

諸大臣ノ輔弼ニ三日ニシテハ未ダ充分ナル大通例諸大臣ノ副署ヲ要ス

蓋シ之ヲ推シテ
此ノ如キ通例ナル
一切ノ事例ニ通用スベシトシテニ非レトモ苟モ一
般ニ公布スベキ政府ノ挙措ニ付テハ必ズシモ大臣ノ副署ヲ要スベキナリ

憲法上ノ通義ニ在リテハ法律命令ハ大臣ノ輔弼ヲ待
テ之ヲ発布スルコトヲ例ヘリ第九条ノ場合ニ於テルカ如クナルベシトモ苟
モ大臣ノ副署ナキトキハ決シテ有効ト認メ難シ是ヲ以テ本条ハ左
ノ如ク修正シ加ヘンコトヲ望ムナリ

天皇ハ諸大臣ノ輔弼ノ副署及輔弼ヲ以テ施治ノ事

第七条
第八条
第九条

異論ナシ

国家危急ノ事ニ迫リ拘ヲ(限ナキ)ル(伊東殿)国家危急ノ場合ハ饑饉疫癘(病)又其他ノ災害(天災)時変ニ因リ生シタル禍害ヲ指スヘキモノナルカ故ニ国家危急ノ場合ハ(国家ノ)災害ヲ為ス(ノ)ノ変改ヲサルヘカラス

本条ノ勅令ハ法律ノ効力ヲ有シ之ニ因テ以テ現行ノ法律ヲ更改シ且刑罰ヲ(ヲ)科スルコトヲ得(ヲ)

慶止(モノトス)スヘキカ故ニ外国ノ例ノ照(此ノ如キ)勅令ヲ発シタル後国会ノ(更ニ)

承認(ヲ)ヲ(ヲ)ヲ(ヲ)ヲ

ン流スノ具メルニ過サル（四ツノ過ヨリ過ヨリ次ヲ[illegible]）

彼ノ痛論駁議ノ衝ノ[illegible]ルヲ免レサリシ之ヲ要スルニ勅令ヲ設スル

ノ権ニ[illegible]ヲ[illegible]ノミ国会ノ立法権ヲモ侵ス虚文ニ属

セシムルモ亦何ノ難キカ之レアランヤ

第十條

本條ノ明文ニ依レハ天皇ハ僅ニ警察勅令ノミヲ発スル

ノ権ヲ有スルニ止マルカ如シト雖モ天皇ハ其ノ臣民ニ対シ軍務

以テ国家ノ

[illegible]ヲ

又ハ国家ノ福祉ヲ増進スルニ必要ナル勅令ヲ発スル権（其他）

ニモ之ヲ亦為シ

[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ其事ノ[illegible]法律ニ背馳スルモノ（非）

[illegible]又ハ法府ノ職権ニ属スルモノニ[illegible]（非）

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

之ヲ変スルノ権ヲ有セサルヘカラス

故ニ余ハ左ノ如ク修正スルヲ可トス

上欄 国家ノ安寧幸福ヲ維持シ及施政其宜ヲ得ル為

ニ云々 下欄

余ノ原案第七條ニハ特権及法律ノ特免ニ関シ明條ヲ掲ケタリ蓋シ天皇ノ此特権ハ往昔ニ生ジタル特ニ重視スヘキ特権ナリ

善政ヲ尊敬スル為ニ

置

今日ニ至テハ及テ之ヲ讃称セスシテ或ハ国ニ於テハ政府ガ種々ノ規則ヲ設ケタルカ為ニ自由貿易ハ平衡ヲ失シ均一ノ義務ハ自由ノ如クナリ自由競争ハ人民ノ法律ノ上ニ均等ナリトスルノ説ハ一ノ熾ンナラシメノ故ニ此特権ヲ廃シタルモノアリ故ニ今日ニ至テハ皇室ノ特権ハ施行スヘキ範囲ハ頗ル狭小ノ区域ニ限

高カ如シ 然ルニ往昔ニ在テハ通商貿易其他航海
術等ノ発達スル為ニ広大ナル区域ニ於テ之ヲ所行ヒタリキ 現今世界ニ於テ
各国ノ独立ノ権ハ今日ニ於テ之ヲ獲ル能ハサルナリ
自獨乙ノ政府ハ宗教上ノ圍作文学及慈恵ニ
関スル技社等ニ特権ヲ与フルヲ之ヲ用ヒ其他法律上
ノ場合ニ於テモ亦一定ノ規程ヲ設ケ以テ完成セシメ之ヲ用ヒ
ナリ技社ハ第十二條ニ明文アリト雖モ第六条ノ趣旨ニ依リ亦之
ヲ認メサルニ非ス故ニ第六条ハ寧ロ法律ニ依リ亦之
ヲ認メ場合ニ於テハ
実ニ政治上ノ通則ニ近代ノ規程ヲ按スル時ハ憲法ニ於テ特項
ヲ設ケ
憲法中ニ
カフルヲ主張セントスルモ若シ之ヲ掲ケサル時ハ果シテ如何
トスルヲ
全ハ天皇カ其事ニ付テ全ク特権ヲ有セサルヲ

明カニスルモノナリト

論述セサルヲ得ス如何トナレハ斯ノ如キ法制ノ權ハ必制定ハ五家

ノ特權ニ屬セサルヲ正シリ立法府ノ區域ニ屬スル權限ノ

モノナリト認定セサルヘカラサルナリ

~~第十四條ヲ~~

~~第十一條ヲ~~

~~第十四條ヲ~~

~~刪ス異議ナシ~~

別ニ異議ナシ

第十五條

天皇ハ四大親ヲ陸海軍ノ統帥ノ權ニ

ハ必要ナルヘシ何

トナレハ或ル場合ニ於テハ天皇親ヲ陸海軍ヲ統帥スルニ

適當セサルヲアリ要スルニ本條ノ旨意ハ最高位ニ

居タルノ權ハ獨リ天皇ニ屬シ全國ノ軍兵ハ決シテ政

權ト反シテ運動スヘカラサルモノタルヲ明ニスルニ在リ故ニ

當ニ左ノ如ク修正セシムルヲ御告ス

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

上欄 及陸海軍ノ統御ニ陸海軍ノ施政ニ関シテハ最

高会議ノ下ニ

若シ此ノ如ク修正セサルトキハ本條ノ主旨ニ反シ陸海

軍ノ施政ニアラスシテ単ニ軍事ノミノ最高会議ノ

意ナルヤ誤解セシムルノ虞アリ

下スナンシトノ疑ヲ生ス

陛下ハ陸海軍ノ兵ヲ増加セントスル時ハ国会ノ議

ヲ経スシテ本條ノ明文ニ依リテ之ヲ増加スルノ権アルヤ否ヤ

ハ一ノ疑問ナリ今與国ノ憲例ニ徴シ法律ノ規定ヲ確

定スルノ必要ナルヤ頗ル疑問ナリ能ハサル所ナリ

四 一国ノ兵力ヲ増ケテ国会議決ノ左右スル

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

任セハ畫ニ危殆ノ恐レアルモ之ハ国家ノ煩累ヲ免レス故ニ天皇ハ戰時(平時ノ誤カ)ノ指揮陸海軍兵力ヲ定ムルヲ得ル大權ハ明條ニ掲ケサル一カラス但一般ノ徵兵法律ニ牽違スルハ論ヲ待タサルナリ若シ毎明年ヲ歲ヲ兵ヲ左右スルノ請求ニ逢テ

第十六條

遂ニ陰限モナキ紛爭ヲ官民ノ間ニ生スルニ至ラシ本条ニ付テハ余ハ戰權ヲ施行スルニ必要ナル勅令ハ天皇ニ於テ發スヘシトアルモノナリ普魯西憲法ニ於テハ此事ニ付別ニ明条ナレトモ英国ニ於テハ此權利ハ国王ニ法上ノ特權ノ一ト考フ其事例ノ畢

クレハ譬ヘハ局外中立、船舶ノ抑留、復讐、捕獲封鎖、
其他戰略上ノ措置ヲ命スル公布ニ関スルモノナリ此ノ如
キ命令ハ必ス權利義務(勅令ニハ私權ノ侵害ニ亦タ多キ)以テ公衆國ニ於テ
ハ此權ヲ上院(シヤウヰン)ニ委セリ普魯西憲法ノ如キモ皇室(此權ニ関シテ)
特權ノ區域ヲ既ニ(シ論スルニ於テ)洵ニ疑義ヲ免レサルモノアリ是ヲ以
テ特ニ此明条ヲ設クモ亦毫無用ニアラサルヲ信ス

第十七條

凡ソ臣民ヲシテ服從セシムルヨトヲ要スル條約ハ法律ヲ公布スルト同一ノ式ヲ以テ之ヲ公布センヿヲ勸告ス何トナレハ何等ノ條約ト雖モ均シク臣民ヲシテ服從セシムルニ至テハ法律ノ性質及其効力ヲ有スレハナリ依テ更ニ左樣ノ如ク修正セラレンヿヲ望ム

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

上略 モノハ法律ニ公布式ニ依リ之ヲ公布スヘシ

第十八條

本條ハ天皇カ帝國議會ヲ開散スルノ權ヲ明記スル

モノニ付其會期ヲ延長シ開散ニ比スレハ主トシテ瑣事ニ

屬シ且第三十六條ニ明文アレハ之ヲ削除スルヲ可トス

第九條

別ニ異議ナシ然レトモ全ノ原案ニ於テハ第一損政ノ外

ニ天皇ノ權ヲ委任スルノ條項ト第二皇室典範ヲ

定ムルノ條規ヲ載セタリ

第一、第二ノ各國ノ憲法中ニ明條ヲ見サルハ事

實ナリ然レトモ國王ハ實ニ或ハ航行ノ暫時ノ故障

事故ノ場合ニ於テハ實際國王ハ之ヲ行フヲ屢アリ

前昔王カ其病篤ニ就キタル初メニ於テ皇弟ヲ井リアル
ヲ攝政ニ任シタル時ニ当リ或ル部分ノ人ハ之ヲ以テ憲法
上ノ例規ニ戻ルトシテ痛論セリ然リ然ルニ何時ノ間笑國
王カ共ニ攝政ヲ置クトヰフニハ王ニ批難ヲ免レサ
ルヿヨリ是等ノ疑議ヲ生ズルノ虞ニ備ヘル為ニ第八
原案第十三條ノ必要ヲ感セリ

第二ノ皇室典範ヲ定ムルノ條規ハ普國憲法中其
明條ナレハ爾モ獨逸國ノ例ニ於テハ其明條アリ又千
八百五十二年ノ佛國憲法ノ勅諭ニモ之ヲ載セリ今其要
領ヲ掲載セハ第一皇室典範ハ皇帝カ皇室ノ家長權

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

ヲ以テ之ヲ制定スル第二此家長権ハ通例政治上ノ権利ノ
帰スル所ト均シク共ニ皇室上ノ権利ナルモノナリ此カモ国會
ノ承認ヲ経ルノ義務ヲ帶ルヲ以テ素ヨリ此点ハ獨逸王
我ニ出ツルモノニシテ英国及他ノ諸国ニ於テ認ムルモノアリ
英国及他ノ諸国ニ於テハ皇位継承供奉ノ確定
事ヲ決シ
ノ繁全ク政治上ノ事項ニ属シ共ニ国會ノ承認ヲ経サ
トスル英国及他ノ諸国ニ於テハ之ヲ認メサルヲ想ヒ
ヘカラス
日本ニ於テモ此ノ如キ主義ハ一般世人ノ
了解セサル所ナラン故ニ政府ノ反對党又ハ民権論者漫
ニ英風ノ思想ニ流レ遂ニ皇室典範ト他ノ法律トノ
間ニ区別ヲ設クヘカラサルヲ論スルニ至ル余ハ此ノ如キ道

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

憲章ニ於テハ

理ヨリシテ原案第十五条第十六條ノ削除ヲ、其ノ本セサルノ可キヲ信ス

可キ事ニ、但修正案第八十條中ニ皇室ノ費用額ニ関スル

ノ陪ハ國會ノ容認スヘキノ限ニアラスト明條ノ掲ケルモ余ハ

猶ホ原案第十五条ニ存セシヲ勧告ス何トナレハ皇帝及

皇室ノ収入ノ決定スル権利ハ就レニ在ルカ一モ之ヲ明示スル

ナキヲ以テナリ

第三章　帝國議會

余ハ貴族院ノ名称ニ就テハ強テ異論ヲ主張セス蓋シ

貴族院ノ名称ハ獨リ英國ニアルノミナラス普墺二國ニ

モ亦其ノ例アリ唯タ憾ラクハ貴族院カ名実ニ照シテ

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

全ク適當セリトヒフヲ得サル一事ナリ何ハナレハ天皇ノ
勅撰ニ出ツル者或ハ府縣ヨリ公撰セラレタル者モ此議員
中ニ在レハナリ昔墺二國ニ於テハ之ヲ貴族ト稱スル
ヲ單ニ貴族院議員ト呼ヘリ英國ニ於テハ全ク然
ラス實際上院ノ議員タル者ハ皆貴族ナリ（素性ナキモノ）

第二十二條

衆議院（英語ニ庶民院ト譯ス）ノ名ハ遠ク封建時代ヨリ國傳ス（未詳）
（故ニ其他ノ遺物）封建時代ノ遺物ナリ其ハ今世ニ傳ハシリ故ニ今
日ニ在テハ別ニ意義アルニアラスシテハ寧ロ之ヲ更メテ代議院
トスルヲ穩當ナリ

本條第二項ニ於テハ公侯伯爵ハ世襲議員タルノ例條

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

ヲ設ケサルヘカラス何トナレハ其世襲議員タルノ一事ハ
他ノ議員ニ對シ著明ナル區別ナレハナリ 殊ニ 皇族ト
至テハ 其世襲議員ニテ 世襲ニシテ 時ニ或ハ父子共ニ議席ニ就
コトヲ得サルヲ
ノ 場合アリ
第四項ニ學識功勞ト并記スルモ實ハ學識ハ其功勞
中ニ包含シ解セサルヘカラス 英國憲法ノ
例ニ倣ヒ門地又ハ富豪ヲ特撰スルヲ載セサリシ蓋シ
已ニ華族ニ於テモ數ク 故ニ
此權利ヲ施行シタリキ 若シ男爵ノ如キ一富豪ノ内ニ於テ
其人撰ニ當ラサル ニシテ或ハ富豪ニ於テ
撰ヲサル人 皇帝ノ特撰ヲ要スルヲアラン四華
里ニ於テハ國王親ラ特撰シテ世襲議員トナスノ權アリ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

然レトモ余ハ敢テ之ヲ主張スルニアラス、

第五項 府縣ノ公撰議員ハ天皇ノ勅任ニ依ルヲアリ然ラ
ハ各府縣ノ公撰ニ係ル者ハ自由ニ其勅任ヲ拒ムヿヲ得
ヘキ欽又特ニ法律上ノ欽点アル場合ニ限リ之ヲ拒ムヘキヤ

第二十六條 ニ於テハ當撰者名目
明文

ト認ムル時ハ更ニ再撰セシムルトアルノ條ミモ亦同一ノ疑
アリ余考フル所ニ依レハ撰擧権ヲシテ果シテ其價値
ヲ有スルトセハ當撰者ノ之ヲ拒ムニハ必ス法律上ノ資格ヲ欠ク
ノ事故ノ外決シテ自由ニ其勅任ヲ拒ムヲ得ヘキモノニアラス、

余カ案第十九條ニ於テ毎年ノ議會毎ニ正式ノ勅書ヲ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

以テ任命セラレタル二アラサレハ議院ノ議席ニ列スルヲ得
（明記シ以テ下院議員ノ毎年ノ會期ニ隨テ招集ノ要ナキ事ヲ）
スト雖モ是レ各國ニ行ハレ慣例ニシテ其議員各法律
上ノ資格ヲ具備スルヤ否ヤヲ檢定（上院タル者）ス上院議員ハ毫モ代議
院ノ性質ヲ有セス其權利ハ全ク皇室ノ權利ニ基クヲ以テ
上院議員タルノ性質ヲ確立セシメハ實ニ必要缺クヘカラサル事項ナリ

第二十二條

皇族タルト貴族タルトヲ問ハス
均シク皆皇帝ノ勅任ヲ須タサルヘカラス
異議ナシ

第二十三條

本條ニ依レハ世襲ノ議員ハ滿二十五歳ニ達セサレハ議
席ニ列スルヲ得サル制ナリ各國ニ於テハ王族ヲ除クノ外

満三十年ヲ以テ定限トスト雖モ今ハ此ノ如キ制限ヲ設ケ
テ区別スルヲ欲セス若シ貴族ハ二十五年一構ノ解散
達スルノ後ハ必ス議席ニ列スルヲ得ルモ廿五年ニ達セ
サル者ハ其可否ノ数ニ入テサルヲトセハ却テ便利ナラン歟

第二十四條

前條ノ規程ハ之ヲ男爵ニモ適用シテ議席ニ列
スルハ十年以上ト定メルヲ妥当ト
[illegible]

第二十五條 第二十七條ニ於テ

異議ナシトスルモ上院ノ下ニ付尚ホ述フヘキアリ
[illegible]

第上院議員タル資格ハ尚ホ一層完全
法律上ノ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

制定セサルヘカラス独リサレハ自ラ不適當ノ人ヲ上院議
席ニ列セシムルノ恐アリ而シテ上院議員ノ不能力ノ
要点ハ代議院議員ト同一ニシテ殊ニハ民癲白痴ナ
ル歟或ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル又ハ刑事ノ告訴ヲ
受ケタルモノヲ以テスハ能力者ノ要点トセサルヘカラ
ス（本条ハ第六條ノ条箇ニ入ルヘシ）

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

第二　修正案ニ依レハ上院ノ議員ハ種々ニシテ世襲アリ終身アリ又十年五年ノ任期ヲ定ムル者アリ余ハ之ニ對シテ大ニ異論ヲ唱ヘサルヲ得ス余ノ考案ニ依レハ上院議員タル者ハ必ス世襲若クハ終身其任ニ在ルモノタラサルヘカラス蓋シ定期議員ノ制ハ一般人民カ代議員トン

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

テ撰挙セラル時ハ伊国白耳義及合衆国ノ如ク
憲法ノ精神ニ因リテ上院議員ノ性格ヲ有スル場合
ニ於テハ遠慮スルモノトス 英国ノ上院ニ於テハ英国議員ハ終
テ世襲ノ貴族議員ハ一期ヲ七年トシ愛蘭議
員ハ終身撰ハルヽヤウ定メ余ハ此区々ノ制ハ所ル

ヲ知ラスト雖モ寧ロ愛蘭議員ノ例ニ倣ヒ欽定ノ
上院主眼ノ性質ハ不一定不動ニシテ時ニ変易ナキニ
在リ若シ議員ヲ変易セハ決シテ其威厳ノ確立ス能
ハス而シテノ上院内ニ在テモ亦此種ノ議員ヲ目シテ一階下
級ニ在ル者トスルニ至ルヘシ余ハ子爵男爵ト雖モ均シク華

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

族以上ハ公侯ノ議員ニ同シク上院議員ノ権利
ヲ有スヘシト信ス（華族）（想フニ）（唯）子男爵ハ公侯ノ其人員
ノ多キ故ヲ以テ寄ル皆議席ヲ占ムルヲ得（スト為シ遂ニ之ヲ）撰
（セシムルニ足ラサルヲ）
五日ヨリ百五拾人ニ至ル一日（撰ヒタル後僅ニ数年）
（華族ヲ）（ナル）
（ニシテ）議席ヲ失ハサルヘカラサルノ道理ノ発見セス蓋シ此

道理唯華族ニノミ然リトスルニアラス府県公撰ノ議員
ニ於テモ亦同一意見ニ上院議員ニ撰ヒタルニ相当ス高
等ノ資格ヲ具備シテ任命セラルル者ナレハ甚資格ノ存
スル限ハ永久ニ議員タラサルヘカラス上院議員ノ廃止変
易スルハ所謂民主ノ義ノ制度ナルヲ免レサル
（サルモノトスルハ一歩ヲ）

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

第三　今年八月

問題ハ上院議員ノ種別ニ就キ人員制
限ニ置クヲ是ナリ余ノ考フル所ニ依レハ華族議員ト
他ノ議員トノ間ニハ常ニ権衡ヲ維持シ以テ上院ハ
法律上ニ於テ貴族院ノ性格ヲ有シ華族ノ勢
力容易ニ他ノ議員ノ為ニ壓制セラレサルモノトナセル人

カラス故ニ余ノ当初ノ考ニ於テハ華族ノ数ハ常ニ他議
員ノ数ヨリモ多カラシメンコトヲ此件ニ関シ
依レハ余ノ意見ノ採用セラレサリシ知ル若シ此ノ如キハ政
府ハ華族ヲ壓制スル為ニ制限ナキ多数ノ他ノ議員ヲ任命
スルノ自由ヲ有スルモノト謂ハサルヲ得ス是レ現政府ノ存スル

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

亡モ
間ハ他ノ顧慮スルヲ要セスト雖モ異日他ノ主義ヲ成立スル内閣ノ起ルアラハ必ス余ノ憂慮スル所ナレトモ然カラスシテ遂ニ英國政府ノ要風ニ模倣スルニ至ランモ亦多クハ知レカラス是ヲ以テ余ハ豫メ制限ヲ設ケテ其難ヲ防止セサルヘカラスト思考ス

第三十八條ヨリ第四十八條ニ至ル

此數條ニ載スル所ハ概ネ余ノ原案ト其主意ノ同カラサル少クシテ修正シタルモノニ過キサルヲ以テ敢テ異論ヲ唱ヘサルモノ第四十三條ニ上院ハ出席議員五十名下院ハ法議員半數以上ノ出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ストアリ余ノ考フル所ヲ以テスレハ上院ニ於テハ過少下院ニ於テハ過多ノ感

アリ然ルニ依テ看レハ上院ニ於テハ二十六人ノ多数アラハ容易
ニ政府ノ発議ヲ阻ミ下院ノ議決ヲ妨ケ或ハ之ヲ廃棄シ
得ヘシ（第六条 上院ハ議員ノ数ハ五百人ヲ超ユヘカラサル事 第八条 上下両院共ニ百名ヲ以テ最下限ト為スヘキコトヲ）
少シモ其ノ発議ヲ妨キ然レトモ余ハ甚タ此問題ノ困難
ナル知ル現ニ各国ニ於テモ其例區々ニシテ固一ナラス故ニ余ハ此

修正案ニ對シ理論ヲ以テ攻撃スル能ハスト雖モ欽慕スル唯タ便宜如何ニ
存スヘシトスルモ下院ニ於テ人員ヲ限ルハ便利ナリトスル何トナレハ時
々議員任期ノ初ニ接戦ノ競争アリ又時ニテハ
欠員ヲ生シ常ニ変動定マリナキヲ以テナリ
余カ原案ニ掲載セラレタル條項ニシテ此修正案ニ除カレタルモノ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

数多ヤリ之ヲ撰挙ノ事

一 撰挙法ニ関スル規程 原案第廿一条ヨリ第二十三条ニ至ル

二 撰挙ノ自由ニ関スル規程 原案第廿四条乃至第廿五条

三 代議員ノ手当ニ関スル規程 原案第廿八条

按スルニ是等ノ規程ハ撰挙法又ハ他ノ特別ノ法律ヲ以テ

一定其効果ニ於テハ異同アルナシトノ意ヲ以テ除カレタル

ナランカ然レトモ若シ之ヲ別法律ニ規定スル時ハ帝国議会

ハ其法律ノ変更ヲ請願スル権利ヲ有スルヤ如何之ニ反シ

テ憲法中ニ明記ス時ハ議会ノ請願権内ニ属セス是レ其為

㊤差別スル所以ナリ試ニ各国ノ例ニ照スニ撰挙法ノ主眼ヲ

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

綱目
規則ハ皆憲法中ニ掲記セサルナシ余ハ亦之ニ倣フヘキヲ信
ス要スルニ撰擇ニ関スル権利ハ憲法上ノ権利ニシテ世
人カ價値ヲ憲法ニ置ク所以ハ即チ其内ニ載スル條款ノ
尊貴ナル故ニアラスヤ若シ之ヲ他ノ法律ニ於テ定ムル時ハ
幾分ヲ其價ヲ減セサルヲ得ス

修正案ニ依レハ帝國議會ノ権限ハ單ニ法律議
決ノ権ヲ与ヘラレタルノミ余ノ当初ノ案ニハ左ノ諸権ヲ与フヘキ
ヲ發議シタリ

一 法律起案ノ権 第四十条
二 天皇ニ請願又ハ建白ノ権 上奏 第四十二条

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

三　一個人ノ請願ヲ受領シ及議決スル ノ権　第四十三条

四　国事ニ関シ政府ヘ質問スル ノ権　第四十五条

五　説明ヲ求ムル ノ権　第四十六条

法律案ヲ提出スル権利ノ外従テ前ニ列記シタル重要ナル事項ニ付テハ修正案中徒テ見ル所ナシ之ニ依テ観ルニ従テ前記ノ諸権ハ議會ニ与ヘラレサルモノト認メサルヲ得ス若シ果シテ然ラハ此憲法ハ甚タ不満足ナルモノナリト云フノ批評ヲ来ヘサハ豫メ余ノ断言スル所ナリ従テ前記ノ諸権ハ各国ノ何レノ国ニ在テモ之ヲ議会ニ授与セサルヲナシ素ヨリ之憲政体ニ於テ是等ノ諸権ハ関係最モ重キモノトセラルヽヲ故ニ余ハ憲法ノ明条ニ於テ此重大ナル諸

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

黙ヲ載スル付尚ホ甲乙丙丁ノ費サレンヲ切望ス

議事規則ハ第三十七条以下第四十条ニ至リ第四十四条

第四十六條第四十七條第四十九条等ノ如キ規程ニ於テ

指定スベキ事ヲ憲法ニ明記シ別ニ議事ニ関シ法律ヲ定メテ之ニ詳

記載セハ必スシモ憲法中ニ載スルヲ要セス然レトモ余カ之ヲ

憲法中ニ掲ケタル所以ハ立憲政体ノ上ニ於テ甚タ際

要ナルヲ認メ殊ニ議員タル者ノ憲法上ノ権利ヲ定メル

ヲ以テナリ故ニ之ヲ憲法ニ明記シテ議員ニ与フル時ハ他ノ人民

感觸ヲ善クスルノ利アリトス

法律並案ノ権利ハ修正案第三十二条ニ於テ特ニ政府ノ

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

掌中ニ属セシメラレタリ但シ第一ノ原案ニ於テハ此ノ如キ
事権ハ獨リ憲法ノミニ関スルヲ限リ然ルニ第三
十三条ニ於テハ帝国議會ハ新法ノ制定又ハ現行法律ノ
改正廃止ニ関スル意見ヲ建議スルヲ許サレタリ憲
法上ノ権利ノ点ヨリ第三十三条ヲ以テ当分ノ内充分

○第四章

第四十九条

本條ノ字句ニ修正ヲ加ヘサルヲ得ス蓋シ帰化ハ国民
籍ニ編入スル一種ノ方法ニ過キサレハ所ノ国民ノ籍ニ編入
スト云フ文字中ニ包括セサル一カラス而シテ国民籍ニ関スル権
ノ意ニ出ツルモノ
ノ権利ト認メ難キ之ニ同意スヘシ

臣民一般ノ権利義務

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

利及義務ハ法律ノ定ムル所ニ依ルヘキヲ附記スルヲ要スル通例国民籍ノ法律ニ定ムヘキヲ故ナリ

第五十条

異議ナシ

第五十一条

兵役ニ就クノ文字ハ獨逸ノ陸軍（後備軍国民軍○○○）及海軍ニ於テ（たんぬき）

十七才以上四十二才マデノ内ノ段階ニ在ル者ヲ包含セス

第五十二条

如シ

義務ヲ果シテ然ラハ寧ロ陸海軍ノ軍役（personal service）ト修正スルヲ可

トス英語ノ所謂アーミーシハ欧洲大陸ノ軍制ヲ以テ抵スルノ

文字ニアラス

内税ノ字ハ主ニ直税間接税ヲ含ムコトナキ間税

ノ一種ニ属シ政府ノ専有権ニモ包含スヘシトハモ官有

財産ヨリ生ズル其他ノ政府ノ収入又ハ行政上ヨリ生ズル収入

例ヘハ造幣郵便鉄道電信道路等ヨリ生ズルトキモハ

但シ已会セスシテ余ハ原案第六十条ニ於テ之カ明文ヲ載セタリ。

近年

諸国ニ於テ概ネ皆是等ノ収入ハ国会ノ議決ヲ経ヘキト為

元等収入ヲ会セサル

スヲ以テ○○此ニ至ルトモ此趣意ヲ別ニ明条ヲ設ケン

第五十三条

ヲ要セス

本条別ニ異議モ無レトモ住ヲ移転スルノ文字ハ外国ニ植

民及外国ニ移住スルヲモ包括スルカ如キ疑問ヲ生

セサラシム為ニ其意ヲ包会スヘキヲ主張セサルヲ得サルナリ

第五十四条ヨリ
第六十四条マデ

異論モ然レトモ唯タ一ノ述ヘントスルモノハ既ニ前ニ論シタル
道理ニ由リ第六十二条ニ於テモ亦タ同シク請願権ヲ帝国
議會ニ許与セサルヘカラサルノ要アルヲ見ル是ナリ

第五十三条ノ居住ヲ移轉スルノ権ニ付テハ兵役ニ係ル制限モノ
ヲ除クノ外ハ別ニ制限ナシトスフノ意ヲ以テ超要セシタルナリ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

ント雖モ少シク速斷ノ憾アルカ如シ何トナレハ法律上ヨリ論スレモ社
交上ヨリ論スレモ尚ホ他ノ制限ナカルヘカラサレハナリ蓋國憲法
第十一条ニ殖民ノ權ハ兵役ヲ除クノ外政府ニ於テ之ノ制限
スルヲ得ストアリ然レトモ父母夫又ハ債主ニ於テ外國ニ殖民
スルヲ拒ムヲ得ハ一般ニ之ヲ知ラサル所ナリ獨逸ノ法律ニ依
レハ何人ト雖モ貸借アル場合ニ於テハ豫メ債主ヨリテ滿足
セシムルニアラサレハ殖民スルヲ許サス故ニ唯タ居住ノ文字ハ
是等ノモノヲモ包含スルモノトス而シテ此ノ如ク一括セ
ラ蔽ノ時ハ此ノ如キ疑義アルノ免レス
ントスル時ハ事実法律上ニ超ヘキ制限ノ憲法中ニ明示セ
サルヤノ批評ヲ来スヘシ故ニ是ハ余ハ左ノ如ク修正セント欲ス

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

日本臣民ハ法律ノ範囲内ニ於テ居住ヲ移轉シ及
殖民スルノ自由ヲ有ス

司法

第五九条ヨリ第六十九条迄

○第五章

各條大体ニ就テハ異論ナシト雖モ政府及天皇陛下ニ
對シテ訴ヲ訴フルニ付テハ他國ノ憲法中ノ事例アルハ如ク設ケヘキ
已ニ帝国ニ於ケル如ク憲法上ニ於テ明規ヲ定ムルヲ便益ナリ
司法ノ区域ニ付テハ獨逸及佛蘭西ノ制度ニ於テハ民刑裁判ニ
限リアリテ行政裁判及權限爭議裁判ハ俗ニ行政ノ区域ニ属スルモ
原案ニ於テ裁判ノトス故ニ余ハ行政及權限爭議裁判ハ事項ヲ行政ノ章中ニ加ヘタ
リ（第七十九条及第八十一条）然レトモ事実上ニ於テ大差アルニアラサレハ孰

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

余考フルトコロニ依レ
レニ定ムルモ可ナリト雖モ其事実上ニ於テ法果ノ相異ナル点
ハ行政裁判所又ハ権限裁判所ヲシテ行政官ノ官制ニ
属スル事項トシテ勅令ヲ以テ定ムヘシトスルノ便アリ
然レトモ余ハ同時ニ於テ
但此事例ノ豫メ明言セサルヲ得ス
特例ニ出ルモノナル
原案第七十条及第七十一条ニ曰ク裁判所ハ判決及判定
アル如シ

第七十一条ヨリ第七十五条ニ至ル

○第六章

ニ対シテ理由ヲ付スルヲ及裁判所ガ其権限内ニ於テ権
限ノ有無ヲ裁決スルヲ或ル国ノ憲法中ニ明記スルモ余ハ
之ヲ甚タシキ緊要ナリトセス

行政

各條ヲ通閲スルニ余ノ原案ニ於テ其要点ニ於テハ異同
記載スルヲ要セス

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

アルヲ見サレハ敢テ異論セス然ルニ余カ行政章中ノ
首メニ掲ケタル行政上ノ事項ノ内ヲ修正案ニ於テ天皇ノ
隆盛特権中ニ移サレタルヲモ是レ亦実体上ノ法果ニ
於テ異なし唯タ修正案第九条ノ如キハ立法権ノ施行ニ就テノ
定ムルモノナリトスルヲ得ルモ第十条及第十三条ニ至テハ単ニ

第七十七条

行政上ノ事項ニ属スヘキモノタルヲ建言セサルヲ得ス

修正案

第七十四條ニ行政機関ノ定ハ各部ト改ムルヲ可トス

高崎ニ其先当ヲ見ルヘシ

財政上ノ事項ニ至テハ頗ル整然トシテ自ラ序アリ

比較トモ

修正案 少シク下僚ニ達言スル所アラシメス

国有財産并ニ徴税起債ノ事ハ尚モ議会ノ決内ニ関スル

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

上ハ憲法ニ於テハ國會ノ議決ヲ俟ツモノトスル一時行政上ノ便宜ニ任セサルの通則ナリ國有財産ヲ保護スル上ニ於テ亦必要欠ク能ハス

第七十八条

異論ナシ

第七十九条

本条ノ規定豫算ハ毎年政府ニ於テ之ヲ調製シ帝國議會ノ議決ヲ經ヘシトスルヲ可トス修正案中帝國議會ノ議決云々トアルハ第五十八條ニ依テ天皇陛下ノ御裁可ノ權ト均シク酷ク強キニ過ル感アリ故ニ之ヲ改メテ議決ノ文字ヲ代フル時ハ帝國議會豫算ヲ議決スルノ義務アルヲ憲法中ニ明示スルヲ得ヘシ

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

第八十条

財政ニ関スル憲法上ノ理論ハ貴院ニ於テ文ヲ草シ
貴見ヲ開陳シタル
ルヲナシハ復タ茲ニ反覆喋々スルヲ要セサルヘシト信ス然リト
雖モ帝国議會カ豫算ノ議決スルヲ以テ
ニ於テ政府行政權ノ施行ニ干渉スルヲ許スヘカラサルヲハ行
前後一致ニ出ル
貴説
今其説カ持論ヨリ流レ之ヲ許スヲハ忽チ国會政府
ノ弊ニ陥リ常ニ政府ト国會トノ間ニ爭議止ム時ナキニ
至ル而唯本案ノ精神ニ於テ政府ヲ戦端ヲ啓クノ時又ハ
陸海軍備ノ擴張ノ時又ハ新ニ官廳ヲ設ケ或ハ官吏ノ
俸給ヲ增加セントスル時ハ政府之ヲ專行スルヲ得ルカ特ヲ
帝国議會ノ議決ニ依頼セサルヘカラサルハ尚ホ一疑問ナリ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

ト天皇ヨリ第八十五条ニ明示セラレタル天皇陛下ノ勅裁
権ヲ保有セラルヽモ抑此権ハ稀ニ施スヘキモノニシテ常ニ用ヒヘ
キニアラス所謂変ニ備スルモノニシテ常任ニアラス故ニ議會ニ
於テ豫算ノ議スルニ臨ミ國會政堂ノ領袖ニシテ任意政
府ノ要措ヲ妨碍スヘシト云ハヽ思想ヲ懷カシメサル為ニ
明ニ帝國議會ノ地位ヲ定メサルヘカラス是ヲ以テ今ノ原案
ニ於テ豫算ニ関スル國會ノ部議ハ天皇陛下ガ憲法上
ノ権利ニ依テ定ムル処ニ及ホスヿナキヲ記載シタリ此
モ此ノ如キ明条ヲ設クルヲシテ過厳ナリトセハ尚ホ他ノ方法
ノ存スルアリ即チ獨逸各州ノ憲法中往々其実例ヲ見ル

如ク第八十四条ノ二項ニ左ノ如ク追増スルヲ是トス

帝国議會ハ立憲政治ヲ施行スル必要ナル帝国

議會ノ費用ヲ拒ムノ自由ヲ有セス

蓋シ法律中ニ此明条ノ欠ル時ハ帝国議會ハ遂ニ英

国流ノ惡風ヲ模倣シ政府一切ノ支出ヲ議スル當リ

輙ノ故ヲ以テ隨意ノ議決ヲ為スニ至ル弊端アリ

第八十一条

異論ナシ

第八十二条

豫備費ニ二種類アリ即チ第一ハ豫算外ノ額ヲ超過シ

支出スニハ豫メ知リ難ケレバ豫算外ノ支出是ナリ但豫

算外ノ支出ノ為ニハ臨時費ヲ豫算中ニ設クルモ可ナリト

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

決シテ
第七十豫算豫算超過ノ為ニ之ヲ設クルヲ得ス何トナ
レハ若シ之ヲ許ス時ハ政府ハ豫算ノ定ムルモ其実行上ニ於
テ怠慢ノ弊アレハナリ而シテ偶〻臨時費額ヲ超ユヘキ支出
セザルヘカラサルコトアルモ亦豫算外ノ費額ヲ収入シ以テ豫算外
費用ノ償フヲ得ヘシ唯〻其豫算外ニ生シタル支出
位ヲ
第八十四条
信ヲ後日ニ至リ国會ノ認諾ヲ経タルヲ以テ一般ノ通規ト
為スヘシ
右ノ理由ニ依リ余ハ原案第八十四条ヲ増補セシムヲ勧告
ス
本条ハ下文ノ二ツノ場合ニ於テ政府ヲシテ臨機處分ヲ施サ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

しいれんノ元ニ出ツ即チ第一ハ帝國議會ノ未タ開會セサル時
又ハ他ノ止ムヲ得サル事故ニ依リテ國會ヲ召集シ能ハサル時
第二ハ帝國議會ノ議決憲法ニ背馳シタル時ニシテ第一
ノ場合ニ於テ帝國議會開會セサル時ハ即チ臨時會ヲ
集ムヘシ然レトモ外國トノ戰爭又ハ内亂其他内部ノ形勢

第八十五条

ニ依リ或ハ一般ノ災害ノ為ニ召集シ能ハサル時ハ政府本
條ニ據リ許与セラレタルノ權利ヲ施行スルヲ得ルナリ
本條ニ二ツノ場合ヲ示スモノナリ第一ハ帝國議會ノ一院ニ
於テ第二ハ両院共ニ豫算ヲ議決セサル時是ナリ蓋シ
第一ノ場合ニ於テハ天皇陛下ノ勅裁ヲハ直チニ施行シ

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

第二ノ場合ニ於テハ内閣ノ責任ヲ之ヲ施行スルヤ而シテ熟〻此二ツノ場合ヲ察スルニ其効ヒヲヒフモ法果ヲヒフモ別ニ異ナルナシ畢竟憲法上ヨリハ一院ノ反對ハ二院ノ反對ト均シク一院ノ議決ハ下院ノ議決ニシテ他ノ一院即チ上院ノ議決ニ依リテ廢棄セラルヲ問カ

又熟シノ場合ニ於テモ内閣ノ責任ヲ要スルヤ否ヤニ至テハ異同ナシ本條載スル所ノ憲法ノ大則ヨリ論スル時ハ其タ不滿足ニシテ又大ニ通義ニ背戻スルモノヨリナリト謂ハサルヲ得ス

第六十条ノ七日ノ会ハ政府ノ提出シタル預算ハ議會カ反對

内閣

之時直ニ決行シテ議會ノ決ハ顧ミルニ足ラスト為スニアラスト雖モ
余ハ政府ト國會ノ間ニ爭論ヲ生シタル時ハ天皇陛下ノ親裁
(議)
分裁決ノ權ハ天皇ニ帰スルモノトス
(他ニ之カ)
ノ之ヲ親裁セサルヤ或ハ政府ノ意見シ可ト為シ又ハ不可ト為ス事ノ親裁ヲ要スルヤ
(セサル)
(此事)
修正案第七十九条第八十条ノ規定ハ政府ヨリ提出シタル

憲法ノ義案ノ議決スルノ義務アリタル原案第三十九條ニ就キ熟
(決セサル)
慮スル時ハ豫算案ハ議決セサル事項議決スル不
都合アルヘカラスト雖モ豫ノ防止スルニモ拘ラス未タ此事ナキ係シ
雖シ故ニ余ハ左ノ如ク明条ヲ加フルニ於テ異論セサルナリ

帝國議會ノ一院又ハ二院ニ於テ豫算ノ議決セス又ハ憲法

内閣

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

第十六条
第十七条

ニ背馳シタル議決ヲ為スカ若シ豫算ニ関シ政府ト帝国
議會ノ一院又ハ二院ノ間ニ協議整ハサル時ハ其爭論ニ
係ル事項ハ全ク前内閣ノ責任ニ帰シ天皇陛下ノ勅裁ヲ仰
クヘシ

第
余ハ本章西已ニ事里其他ノ憲法ニ接撰シテ国債ニ関
スル国會ノ保證及監督及非常豫備費ノ積立ニ関スル
議決ヲ以テ国債ニ関スル国會ノ監督ハ若シ
ノ委員アリテ之ヲ施行スル即チ千八百五十年ノ特別法律ノ
如キ之ヲ定メタルヿアリ 余ハ此規定ヲ必スシモ要用ナリトセス
寧モ国債ノ確実ナル管理及財政ニ関スル公衆ニ属スル

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

威信ノ保全ニ付テハ甚タ有益ナリ（憲）

万マータナリト豫算表ノ全部財政ノ上ニ於テ甚タ確ト

○ナルヘキ大体ノ性質及特ニ將来示シタル場合ノ除リ外一時ノ故

障ノ為ニ豫算表確定ノ遷延ニ関係ナル事項ハ況ニ原案

第八十三條ニ於テ既ノ議シタルヤウ憲法中ニ漏スカラサル要事

ニシテ

ナリ各国ノ憲法中ニ概ネ皆之ヲ載セリ而シテ之ヲ規定スル所

ノ実地ニ施ス事実上自然ニ生スベク現ニ本国ノ如キ屢ク

其実例ヲ示セリ憲法中此明確ナキニ於テハ常ニ国家ノ秩序

ノ種子トナルハ免レサル所ニシテ余ハ法律ニ於テ確定セサルヘカラ

サルヲ信シテ疑ハス（リヨンヌ国法学第一巻六十五章七頁ノ参照スヘシ）

第九十条ニ帝室の財産ニ関し載スル所の主義要旨

各國ノ憲法中掲記スルヲ見ル曾ツテ必スシモ要用ナラス但シ

宮有財産ト帝室財産ノ区別及皇室財産ニ付天皇陛下ノ

專権ニ属スル一定ノ規則ヲ要スル点ハ論辯ヲ待タサル所ナリ

○第七章

附則

第八十八条

余ノ発スル所ニ依レハ獨リ憲法ノ修正ノミナラス法律議案

及其他ノ議案モ勅命ヲ以テ帝國議會ニ付セサル所ノ

余ノ知ル所ニ依レハ

是レ與國ニ行ハルヽ一般ノ慣例ナリ

憲法ノ修正ヲ実行スルニ当リ外國ニ在テハ大多數ヲ

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

要スルノ乃チ吉ヲ國ノ如キモ亦然リトス而シテ國會異議ヲ依正
ヲ發議スル權ヲ有セス當ニ此ノ如クナラサルヘカラストモ若シ發
議ノ權ヲ專ラ政府ニ屬スル時ハ何カ故ニ政府修正ヲ行
スルヿノ困難ヲ深クセサルヘカラサルノ理由存スル乎更ニ解スカラス
若シ果シテ政府カ憲法ヲ修正スルヿヲ適當ト思惟セハ

第八十五条

議事常多數ヲ以テ之ヲ決シ
憲法ニ抵觸セサル現行ノ命令ハ憲法ノ規定ニ依リ法律
ヲ要スルトキ又ハ新命令ヲ以テ改正スルトキハ遵行
ノ効力ヲ有セサルヘカラス此ノ故ニ余ハ更ニ新法ノ下ニ「又ハ
命令ニ」ノ文字ヲ挿入センヿヲ希望ス

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

原案第九十一条ヲ第九十四条ニ至ル條項ハ新ニ之ヲ掲記
セサルモ自ラ知ラルヽ浮ル明白ナルモノトシテ除カレタルト或ハ
実ニ無用ニ近シトスル外国ノ憲法中多クハ之等ノ條項
ヲ存スルモノハ単ニ理義偏上ニ止メヨウハ寧ロ確然タル法
律ノ明条ニ基キ曖昧ノ地歩ヲ占ムルノ必要アルカ故ナリ

然リトスルモ一ノ実体上ノ法規ニ関シ[illegible]第九十
[illegible]裁判所ハ勅令其他ノ命令ガ遵行
ノ効力ヲ有スルカ否ヲ判定シ若シ現行ノ法律ニ抵觸スル
時ハ之ノ無効トシテ施行スヘカラスト宣言スルノ権力ヲ有スルヤ否ノ問
題ニ対スル答ヘ
英国ニ於テハ裁判所カ此ノ如キ権力ヲ有スルモ獨佛二国ニ於

国立国会図書館
憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

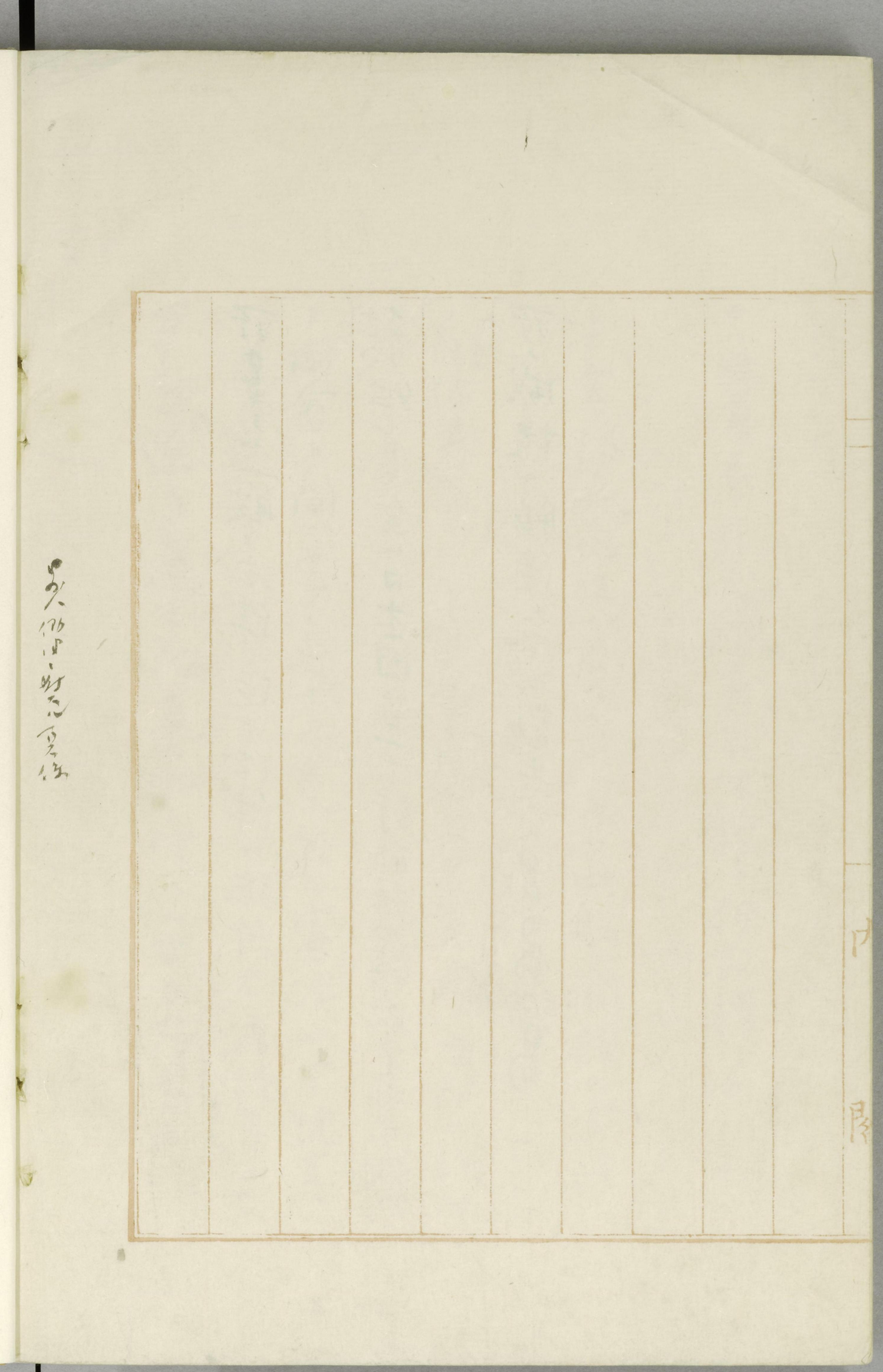
ニハ譬之ヲ有セス何トナレハ司法権ト行政権ト名相對峙シテ全ク獨立ノ地位ヲ有スレハナリ此ノ般ノ問題ハ憲法上ノ関係ヲ有スルモノニシテ甚事ヲ極ムルハ憲法ノカ政府ト國會トノ間ニ定メラルヘキモノタリ若シ憲法上一ニ規定スルヤナリンハ遂ニ英國主義ノ実地ニ行ハルヘキ如キ裁判

ニ行ハレ

所ナリ

所謂ハ一般ニ法律ニ從テ法律ヲ施行スル義務ヲ有スルモ然レトモ余ハ日本國ニ於テ行政府カ此ノ如ク司法裁判ノ威權ニ服從スヘキ勧告スル日ハ尚遠カラサルヘシ

ヲ訳出ス



国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7

国立国会図書館

憲法草案修正意見　ロエスレル　伊東巳代治関係文書7